

# 学校保健

THE SCHOOL HEALTH No.210

(財)日本学校保健会

生涯を通じて健康で豊かな心もち  
たくましく生きる子どもの育成  
—望ましいライフスタイル確立の  
ための自己管理能力をめざして—

第46回全国学校保健研究大会の主題  
(平成8年度・佐賀県)



## 年 頭 所 感

(財)日本学校保健会 会長 村瀬 敏郎

平成8年の年頭に当たり、学校保健の推進に日夜ご尽力されておられる皆様方に感謝申し上げるとともに、本年も変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

少子・高齢社会を目前にして、児童・生徒の心とからだの健全な育成は、国民的課題となっております。平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災が提起した心的外傷後ストレス障害、防災教育等と、今後も引き続き対応していく問題が生まれ、また、エイズ対策とも関連する性教育の問題など、従来にまして力を傾注していかなければならぬ今日の課題もあります。

昨年は、徳島県の関係者の皆様方のご尽力で、以上の各分野にわたって内容の充実した学校保健研究大会が開催されました。本年は佐賀県の担当で開催されますが、昨年同様、皆様方の研究成果に接することを期待しております。

なお、学校保健募金は皆様方のお陰で一応の額に達し、厚く御礼申し上げます。しかし、まだ目標額には至らず、第二期の募金活動を行っております。本会の財政基盤強化のため、一層のご協力をお願いして年頭のごあいさつといたします。



## 目 次

新春座談会	
学校保健・戦後50年 を考える	…2～6
研究大会・特別講演 「愛死について」	…7
叙勲・表彰者名簿	…8～9
学校保健協議大会報告	…10
北から南から 佐賀・神奈川	…11
募金協賛者ご芳名	…12～15

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

## 新春座談会

# 学校保健・戦後50年を考える

於 日本学校保健会 会議室

出席者	元日本学校保健会副会長・本会指導小委員会委員長	重 田 精 一
	元国立公衆衛生院々長・大妻女子大学教授	高 石 昌 弘
	本会常務理事(編集委員長)	杉 浦 稔
	日本中体連参与・事務局長(編集委員)	松 本 國 夫
	東京都町田市立大蔵小学校養護教諭(編集委員)	富 川 佑 子
司 会	横浜市学校保健会理事(編集委員)	竹 田 隼
写 真	元日本学校歯科医会常務理事(編集委員)	石 川 行 男



左から 竹田、富川、高石、重田、杉浦、松本の各氏 (於 日本学校保健会会議室)

## I 戦後の学校保健の動向

**司 会** 戦後の一時期、荒廃から立ち直ろうとして“学校保健”は、どんな目標を掲げて活動したのでしょうか。

**重 田** まず、キャッチフレーズは、「飢饉と貧困」から児童・生徒たちをどう救うか！ でした。

それが方向を変えて実現したのが、学校給食であり、それとともに栄養の向上などが大きなテーマになったのです。

そして、昭和22年に学制が6・3・3制に変わり、昭和24年頃に「中学校保健指導要項(試案)」が作られ、その中に学校保健という言葉があったようでした。

当時の学校保健の目標は“伝染病対策、結核対策”

などの疾病対策でした。そして結核の問題、その他の感染症、回虫症、トラコーマへの対応が主なものでした。

その後昭和33年頃から(学校保健法の制定があった)保健管理が強くあらわれるようになったのです。

また昭和40年代の統計では注目すべきものがあります。すなわち、昭和15年当時の小学5年生の身長、体重と、戦後間もなくの小学6年生のそれとが、ほぼ等しいことでした。

**松 本** 過去の会報「学校保健」を繙いてみますと、昭和29年2月1日号に、学校保健法案の骨子が掲載されており、さらに2年後に「学校保健指導要項」が発表されています。

また昭和38年の東京オリンピックの頃から、学校保健は“日常の実科”として、学校経営の立場から



のものになって行ったようです。そして、学校保健会、学校安全会、学校給食会の三つは、児童・生徒の“健康、栄養、体力”の向上が目標とされています。

話は少し変わりますが、近年になって当初の目標とは別に“半健康、心のゆがみ”など、社会の変革を反映するような傾向があらわれ、生活指導に新たな問題を提起しています。

## II 昭和30年代から最近の学校保健まで

司 会 最近の傾向なども含めて高石先生にお伺いいたします。

高 石 戦後から現在に至る、学校保健の動向は、先ほど重田先生が話されたとおりですが、私なりの印象など述べてみましょう。

### ＝学校保健法の制定＝

大まかに言いますと戦前の「学校衛生」から戦後



高石 昌弘 先生

には「学校保健」に変わり、積極的に児童・生徒の健康の向上にエネルギーを注いだわけです。そして昭和33年に「学校保健法」が制定されました。

私は、それより先、昭和30年に国立公衆衛生院に勤務いたしました。当時の院長は古屋先生、次いで斎藤先生でした。

その頃、公衆衛生院の近所にあり、新しい学校保健活動を展開していた港区の高輪台小学校に船川先生のお伴をしてよく出向きましたが、その多角的な教育方法は大変参考になりましたね。

なお、それを推進しておられたのは有名な千葉たつ先生で、当時は大へんお元気に活躍しておられたわけです。

### ＝学校保健法施行規則の改正＝

さて、「学校保健法」は、表現どうりの名称ですが、中味は管理面が中心に策定されています。しかし、内容はともかく、この法律が出来たことは大へんなことでありました。

学校保健法制定後十数年を経て、昭和48年には学

校保健法施行規則が改正されました。そして、学校で行う健康診断の内容が、かなり変わってきました。つまり、学校の定期健康診断はスクリーニング方式で行うというように変わってきましたが、これには次に述べるような背景もあったわけです。

たとえば、感染症も減りましたし、昭和29年の学校給食法の成果等もあって、児童・生徒の栄養、発育の状態も急速に改善されて、むしろ戦前のそれを凌駕するようになったことなどがあります。また心臓病、腎臓病の検診（スクリーニング）も行なわれるようになりました。

そして最近では成人病の若年化、すなわち、小児の“成人病症候”などが現われ、また、この頃では“心の健康”が叫ばれるようになって、そのあり方も、かなり変わって来たと言えます。

### ＝最近の学校保健の動向＝

司 会 杉浦先生、最近の動向はいかがでしょう？

杉 浦 毎年、全国の代表者が集まって学校保健協議大会が開かれますが、昨年の要望事項と研究課題などの主な点を紹介しますと、①健康診断の充実と強化、②心の健康への対応、③保健室経営の充実、④エイズ問題を含む性教育への対応、⑤健康教育の推進と教職員の学校保健への資質の充実などです。



杉浦 稔 委員長

本年度からは、健康診断の改正があり、心電図による心臓検診が義務化されています。

以上の具体的活動となると次のようになります。健康管理より、健康教育に重点が移ってきたこと。たとえば、エイズ対策は教育が予防ワクチンに相当するということになります。

全国からの情報を集め、どのように問題点を捉えて対応していくかということ。

大規模校などでは養護教諭の複数化の実現。

教職員みずからの健康診断と保健管理等です。

## III 学校での健康教育のあり方

## = 躰と禁煙などについて =

司 会 この頃、子ども達の躰について、家庭での教育に問題があるのでは…という声もあり、さらにその延長かもしれませんが思春期前後の“禁じられた遊び”への挑戦のように喫煙、飲酒、薬物乱用等があり、また一方、非行、あるいは不登校などがあるようです。

高 石 喫煙、飲酒、薬物乱用等はかなり以前から問題とされてきましたが、その共通点といえば“習慣性”の問題でしょう。ともかく、これらの防止指導研究委員会の検討のなかで私は大勢の先生方からのご意見をいただきました。

その要旨を述べますと、

- 子どもの時からの対応が大切である。
- 知識と行動の両面をともに教えるべきである。
- 学校と親、さらに地域との連携が大切である。
- 思春期には大人に近づく気持から、タバコ、飲酒への関心がふえてくるので、特に留意する必要がある。
- 友人に（タバコ、酒等を）すすめられた時の断りが大切である。

このようなことを考えてみますと、年齢に応じた新しい指導の方法と、学校での具体的な対応が必要になるだろうと思います。

司 会 次に、教育現場をあずかる方々のご意見をどうぞ。

松 本 健康教育とか躰にはまず教師と保護者との連携と、さらに子ども達の“自主規制”が望ましいですね。

富 川 私はタバコの害の指導をつぎのように実施しています。それは、タバコ人形（タバコを吸うと、身体の中の水にニコチンがたまり、その色をみることがができる）を作り、実験を子ども達に見せると、人形内の肺の部分と気管支部分の管がたちまち茶褐色に染まるのを見て皆、強いショックを受けたようです。なおこれは小学校卒業前に見せています。

杉 浦 小学校時代にそういった実験をみせてやると一種の“刷りこみ現象”として、脳裏に残りますね。私は小学校も4、5年生から教育指導していくのが良いと思っています。

松 本 喫煙常習者を説得するのですが、それに対する生徒の態度に二通りありますね。たとえば、くわえていたタバコをぱっと棄てて「吸ってねえよ」というのと、「いいじゃないか、俺の身体だから…先生たちも吸っているじゃないか」というタイプがあります。常習者はなかなか教師の言うことも親の言うことも、聞かないので、むしろ“自主規制”というか、子ども達の間で自制する方法がいいのではないかと考えています。

富 川 家族がタバコを吸っていると、子どもも吸うようになる例が多いようです。

高 石 以前、私の息子も思春期の頃、隠れたつもりででしょうか、屋根へ上がってタバコを吸っていたことがありました。危険でもあるので私が「灰皿を置いてやるから、部屋で吸ったら」と言いましたところ、逆療法のように却ってやめましたね。

富 川 先程在校生への禁煙教育のことは申し上げましたが、卒業後、中学生になったある子どもが喫煙しているのを知り、小学校時代の担任の先生が卒業前のタバコ人形の実験のことを話したらかなり効果があったようでした。

## = 心の問題について =

司 会 近年、小学校でのいじめ、あるいは不登校などが問題になってきていますが、それについてお伺いしたいと思います。

高 石 昨年の8月、約60ヶ国から合計約1800人が集まり、千葉で健康教育世界会議が開かれましたが、その際の印象では心の健康も含め「学校と家庭、さらに地域との連携」という意見がずいぶん多くでございました。地域との連携には、現実問題としてかなりいろいろな課題があるでしょうね。

重 田 教育研究所において、不登校の子どもへの対応を検討していますが、いま以上に精神科の医師の参加を期待しています。

高 石 不登校、いじめ、非行など、これはすべて



富川 佑子 委員



心の問題として考えなければなりません。この場合、学校での教育だけでは駄目で、家庭教育との関連で行なう方が効果があります。昨年、興味深い経験をしたのでご紹介しましょう。

それは、新潟県の某小学校での取り組みです。

6年生の修学旅行として佐渡のトレーニングセンターで2泊3日の生活をさせるのだそうです。出発前に母親をはじめとした保護者から子どもへの手紙を預かりますが、内容には例えば「小さい時、弱かったけれど、今日までよく育てくれた」等とあります。到着後、第1日目の夜に、燈火を消した体育館に子ども達を集めて手紙を渡し、それぞれ自分たちの持参した懐中電燈だけを頼りに読ませるのだそうです。「自分を見つめる」ための時間として1時間を与え、その間に母への返事を書かせるとのことです。翌朝、その返事を投函すると、子ども達が家に着く頃には、母親の許に届くというものです。

この営みは一緒に住んでいる家族との“きずな”を強め、学校の現場だけでは得られない教育効果が認められるようです。(上越市立八千浦小学校)

松 本 もう一つ感動的な方法を紹介します。



松本 國夫 委員

某高校の生徒たちに対しての試みですが、老人施設を訪問、お年寄りに話しかけたり、手を触れたことと、さらに乳幼児を預かる施設を訪れて、その幼児たちに直接触れてお世話をした、といった体験をすることにより、健康とか人間自身への思考を深められたということです。

言うなれば、21世紀を見つめての“健康的な生活の仕組み”をおぼえてもらうことです。

#### ＝学校の現状＝

松 本 戦後50年を契機に、昭和一桁時代に生まれた者として学校生活をふり返ってみましょう。

「不易と流行」という言葉がありますが、その意味とは裏腹に“流行”ばかりに先走った観があります。すなわち、

(1)、社会の変容には、適宜対応して行かなければな

らないが、変わらなくてもいいことを大切にすること。

(2)、学校という所は、地域の教育センターではなくなったということ。

(3)、昭和33年に「S製粉」が即席ラーメンを発売しました。私には興味深い記憶があります。それは中学校の学活で、日曜日のお昼に何を食べたか？と聞いたら、「カップラーメン」を美味しく食べた、という生徒がいました。程なくして、土曜日の放課後、弁当の代わりにカップラーメンを持参する生徒がふえて、そのために、用務員室にお湯を貰いに来る子ども達が多くなりました。

このことは“家族との疎遠”がうかがわれました。

#### ＝クラスの人数と教育＝

当時(昭和30年代)には1クラス56名～58名でしたが、昭和39年に45人、昭和55年に40人学級となりました。現在は25～26名が普通の学校もありますが、それにもかかわらず“心の健康”の問題はむしろ増えているようです。1クラスの人数が少なくなれば目が届くとか、生活程度が豊かになればいいとも言えないようです。

学校保健や環境問題などをみると、やはり大人が影響しているのではないのでしょうか。私は以前、生徒と町内会、PTAと街で「空き缶拾い」をしました。一部に「捨てるのは大人が多いのに何で子ども達にまで拾わせなければならないのか？」などの意見もありましたが、これは“心の健康”のために良いと考えたから行なったのです。

富 川 松本先生のご意見に全く同感です。体験を通して自分のとるべき行動を考えさせる良い方法だと思います。

## IV 健康診断方法の改定

司 会 昭和50年代に入って、いわゆる“突然死”が問題となり、心臓検診などが始まり、検査機器の進歩発達によってコンピュータ・スクリーニングが普及して、昨年度からは健康診断に心電図検査が義務づけられました。

これらの健康管理の成果などと、今後の歩みなどについてお伺いしたいと思います。

高 石 昨年春からの改正によって学校現場もいろいろ対応しているようです。検査機器の進歩によって健康診断の方法も少しずつ変わってきたようですが、大切なポイントとして学校の定期健康診断は、あくまでもスクリーニングだということを認識しておかなければなりません。そして、精密検診には地域の保健医療機関などが関わるということになります。

そして、第2のポイントは疾病の診断から健康状態の診断への変化ということです。“健康状態の把握に基づいて、健康教育へ展開する”という考え方で、今後特に健康教育が益々重視されるべきだというわけです。

司 会 重田先生、この所はいかがでしょうか？



重田 精一 先生

重 田 いま高石先生がおっしゃったとおりで、スクリーニングを基本的にしっかり押えて学校教育に見合うようにしてほしいのです。

健康診断を行なう機会に健康教育としての説明を、健康診断実施の前日までに行なっていただきたいのです。

また現状をみますと、種々の機器が発達して、それから健康診断にだんだんと深く関わるようになるかもしれませんが、この場合には学校などで取り扱う健康診断と、他の施設で(機器を使って)行なわれるデータの結果とを総合して考える方がいいと思います。

それを一断面としてみますと、機器で集団的に行なうものと、個々に診査するのでは一寸違うと思われるのです。

杉 浦 現在の社会環境では健康診断の結果の取扱いは、プライバシーの問題などもありますから慎重に対応する必要があります。やはり日常の健康観察と個人の指導が大切になってきます。

松 本 小・中学校では疾病障害を持つ人の扱い方を、人権尊重の面から考えなければなりませんし、教育委員会などでも理解ある対応をしてほしいです。一番大切なことは、心の健康教育をどうするかとい

うこと、さらに内臓疾患があればそれに適した対処をしなければなりません。時として、普通の生活で何も変化のなかった子が突然死したことがありました。そのような場合には養護教諭が持つ健康管理のカードを保護者に見せ、承諾を得てから突然死した子どもの解剖をしたことがありました。しかし、それでも原因を特定できないこともあります。そのような意味で個人の健康管理が大切になります。

## V 将来への展望

司 会 21世紀を間近に控えて、将来へのご希望とか、ご意見がありましたらどうぞ…。

高 石 地域とのつながりについて申しますと、地域保健法が制定されまして、母子保健法などが改正され、平成9年4月からは市町村単位で、種々の活動が行われることとなります。また、地域に“母子保健連絡協議会”“母子保健推進協議会”が設置されて、そこで地域母子保健計画が作成されます。そのメンバーには教育委員会とか、学校関係者等も加わるようになっておりますので、将来は地域ぐるみの健康教育が進められて行くと思われま



竹田 鐘 委員

松 本 これからの希望ですが、学校の教師は普段から、ともに生きるということでしょうか“共生”という概念を持つことが必要になるでしょう。特に養護の先生方には、学校経営のスタッフの重要な一員として働いていただきたいし、また子ども達にはご自分の健康管理はもちろんですが、自分が健康であれば、他にボランティアなどをする、他人に対して役立つこと、つまり自分が受けたものを社会に返して行く、ということが大切だと思います。

また中学生以上の場合、まさかの時に「人工呼吸法などを覚えておいてほしいと思います。

司 会 他にご意見もございましょうが、時間もございませぬので、この辺で終わらせて載せます。どうも有り難うございました。



## 第45回 全国学校保健研究大会 特別講演

## 愛死について

作家・天台寺住職 瀬戸内 寂 聴

日本ではエイズに偏見があり、マスコミ界ではスポンサーがつかないという。NHKでさえ視聴率が低下するといわれて敬遠するのが現状で、読売新聞が最初にこの問題を取り上げた。

私はエイズについて出版社から原稿を依頼され、テーマが大きすぎて断り続けていたが、「先生、中国語でエイズは愛死（アイスー）と言うのだそうですね」といわれた一言が書ききっかけとなった。取材を通じて調べている内に、日本の社会ではエイズに理解がなく、難しい問題に無関心であることに無関心ではいられないのを思い知らされた。患者に会うことも難しく、家族も隠そうとする。医師も偏見を持ち差別感で診療拒否をすることも見られた。その後、カミングアウト（名乗ること）や、患者と国、製薬会社との訴訟を通して会って話をきくことや、研究者達と会うこともできるようになった。

名古屋や埼玉の学校ではエイズについて教えたり研究をしているのを知っている。しかし、コンドームの使い方を理解させようとしても、親ごさんが反対をして教えられないそうである。

血友病による感染者の陳述書は涙なくしてはとて読めない。患者と判ると会社はクビになり、どこも雇ってくれない、つき合ってもくれない、独身といて就職活動をしなければならない、そばにいても伝染すると思っている人が多い。実際に私の庵に患者を招くことになった折にもお手伝いの人は「安いコップを買って下さい」との認識であった。しかし、私達はいつも使っている食器で酒食を共にして歓談をした。お手伝いの人が最初の食器一つを洗った瞬間に「判りました、不謹慎でゴメンなさい」とふっきて言ったのが現状である。

学校現場での実状を聞いてみると、一夫一婦制の純潔教育を親ごさんは望んでいる。しかし、最近の子ども達は体格も優れ、一番性欲も旺盛な時であり、セックスは悪いことだからと子どもに強いるのは無理であり、親ごさんも充分このことは承知の筈である。

子ども達にエイズをどういうふうにして防ぐか、家庭崩壊することも教えねばならない。

エイズの感染は血友病患者に使われた血液製剤によって起きたものと、セックスなどによるものがある。前者は悪いこともしないのに気の毒であり同情できるが、後者は自業自得で仕方がないと世間ではいわれる。

人はエイズ患者を差別する。差別することは人間の悪である。如何なる事情で感染したとしても患者として差別してはならない。

私は幼い時、よくお遍路に会い育った。巡礼姿が真っ白できれいな人と、ボロボロのきたならしい人もあった。後者の多くはハンセン氏病にかかった人である。路地に立って、お金や食物のお布施を求めているのである。手指がないのでヒシャクを腕にくくりつけて施しを受ける姿に驚き、恐ろしいと思った。天啓の伝染病といわれ、家や家族から棄てられた「棄民」である。エイズでも親から莫大なお金を与えられ米国に渡り、帰国するなどといわれた人がいる。棄民と同じ姿が今もある。

人はエイズに対してどうしたらよいか。いつかかると判らない病気と共存するという考えを持つべきではないか。かかった人の不幸を減らす方法を講ずべきであり、前途ある若者にかからないように教え、差別をなくすようにすることが明日の教育のあり方であろう。

阪神淡路大震災が発生し、復旧と共に後遺症ができて傷がより深くなっている。失職、転校などにより良い環境からの激変で、取り残されるのではないかと、幻覚、躁・うつがきて入院したりしている。私は仮設住宅に向いて青空対話をし、説法をするのではなく相手の人の話を聞くようにしている。いじめ、自殺も悩みを聞いてもらえないから起こるのではないかと。親や先生は繰り返し「心のしつけ」をする責任があるのではなからうか。

オウム事件は日本の戦後50年の膿がでたものである。私の庵にオウムから逃れた人がきた。酒を飲まず肉を食べないで我慢している。麻原教祖を尊敬していて、いくら説得しても反論する。時間がくると座禅をして修業をする状態が続きマインドコントロールもとけない内に帰宅した。

彼は、強制捜査の5ヵ月前に④書類の焼却を命ぜられ、サリン、銃の密造文書であることを知り恐ろしくなり逃げたので助かった。オウムの人達は優秀で頭もよく、まじめである。なぜ入信したのか。親や先生との対話がなくて、それを麻原が答え、応じてくれたのだ。オウムのことはひとごとではない、皆まじめに世の中をよくしようとしたらしい。しかし、世の中がそれを曲げたのかもしれない。これは社会につきつけられた問題である。

(文責 杉下順一郎)

平 成 7 年 度  
 叙 勲 さ れ た 学 校 保 健 の 功 労 者  
 《 春 》 《 秋 》

◎ 学 校 医

〈瑞 五〉

榎 千春 (青森県) 荒木田定世 (岩手県)  
 日下千太郎 (宮城県) 定方 邦泰 (群馬県)  
 中島 まき (長野県) 土山 哲次 (和歌山県)  
 小田 正義 (山口県) 三澤 三代 (山口県)  
 霜田 慶秋 (徳島県) 矢野 俊男 (香川県)  
 川野辺芳郎 (静岡県) 藤多 克己 (兵庫県)

◎ 学 校 歯 科 医

〈旭 五〉

谷 幸信 (神奈川県) 本田 學 (福岡県)

〈瑞 五〉

安藤 進 (茨城県) 増田喜久次郎 (千葉県)  
 板橋 修 (富山県) 笥 甚七 (岐阜県)  
 杉山 鋪 (愛知県) 藤本 篤三 (滋賀県)  
 山口千之介 (大阪府) 近藤 基珍 (広島県)  
 坂本 貞言 (高知県) 朝隈 兼士 (鹿児島県)

〈藍 綬 褒 章〉

立花 義康 (青森県)

◎ 学 校 医

〈旭 五〉

遊座 文治 (茨城県) 宮社 亨 (岩手県)  
 相澤 温 (長野県)

〈瑞 五〉

岡田シズエ (静岡県) 一戸 實 (青森県)  
 岡崎 澄衛 (島根県) 山本 きの (神奈川県)  
 早田 工 (宮崎県) 糸日谷清香 (千葉県)  
 徳重 泰義 (鹿児島県) 窪田 治夫 (岐阜県)  
 河野 宏之 (埼玉県) 佐々木敏雄 (秋田県)  
 宮田 敬之 (広島県) 森 かほる (和歌山県)  
 伊藤 博仁 (大阪府) 田原 暁 (山口県)

◎ 学 校 歯 科 医

〈瑞 五〉

遠藤 義見 (宮城県) 樋口 政雄 (北海道)  
 田代 隆一 (佐賀県) 柴田 勇夫 (石川県)  
 伊藤 義博 (群馬県) 飯原 澄 (新潟県)  
 松田 源二 (滋賀県) 峰 正一 (三重県)

◎ 学 校 薬 剤 師

〈瑞 五〉

尾崎 幸弘 (愛知県)

〈藍 綬 褒 章〉

高橋 節夫 (岐阜県)

第 44 回 全 国 学 校 保 健 研 究 大 会  
 文 部 大 臣 表 彰 の 個 人 ・ 学 校 ・ 団 体

◎ 学 校 医 (49名)

大間 道夫 (北海道)	門脇 純一 (北海道)	楊 弘遊 (青森県)	岩井 利男 (岩手県)
簡野 整毅 (宮城県)	大野 忠 (秋田県)	吉川 洋男 (山形県)	遠藤 房子 (福島県)
関 辰三郎 (茨城県)	井口 昭二 (群馬県)	石井 照雄 (埼玉県)	大木 誠止 (千葉県)
藤井 京子 (千葉県)	井上 敬勝 (東京都)	玉澤 昭 (東京都)	小林 芳壽 (神奈川県)
田辺 和男 (神奈川県)	藤岡美津子 (神奈川県)	河内 實 (新潟県)	菓子井幸則 (富山県)
小西 敏春 (石川県)	松本 吉典 (石川県)	降旗 武臣 (長野県)	玉田 孝男 (岐阜県)
加藤 英彦 (愛知県)	山本 肇 (愛知県)	森寺 保 (滋賀県)	藤本 正三 (大阪府)
大上 昌也 (兵庫県)	中村 淳一 (和歌山県)	山本 坦 (和歌山県)	佐々木安夫 (鳥取県)
渡部正三郎 (島根県)	浦上新一郎 (岡山県)	清水 博 (広島県)	高木由紀江 (山口県)
椎野 英二 (徳島県)	藤井 英志 (徳島県)	大塚 弘一 (高知県)	辻 政義 (福岡県)
西田 惣次 (佐賀県)	竹田礎智夫 (長崎県)	松嶋 弘 (長崎県)	山元 惠太 (熊本県)
藤井 正則 (大分県)	有馬 正一 (宮崎県)	津野田嘉彦 (宮崎県)	永田 盛雄 (鹿児島県)
島袋 全雄 (沖縄県)			

◎ 学 校 歯 科 医 (40名)

稀代 祐次 (北海道)	奥寺 恒夫 (青森県)	齋藤 フサ (岩手県)	中村 實 (秋田県)
-------------	-------------	-------------	------------



松田 力夫 (山形県)	本間 藤彦 (福島県)	長澤 宥 (群馬県)	氏家 英峰 (埼玉県)
宇井 重信 (千葉県)	雨宮 正文 (東京都)	今井 雄世 (東京都)	平田 幹男 (東京都)
大谷 仁 (神奈川県)	新倉 朗 (神奈川県)	寺島 祐輔 (富山県)	村松 久中 (山梨県)
太田 啓次 (長野県)	松尾多圭夫 (愛知県)	秋本 武男 (三重県)	古藤 英夫 (滋賀県)
和田 久幸 (京都府)	瀬尾 正 (大阪府)	松岡 博 (大阪府)	高橋 進 (兵庫県)
木村 克巳 (奈良県)	河野 修 (和歌山県)	野津 正三 (島根県)	坂本 茂樹 (岡山県)
生田 仁 (広島県)	大野 春雄 (徳島県)	美馬良一郎 (徳島県)	久保 篤身 (香川県)
岡村 久泰 (高知県)	大庭 二郎 (福岡県)	分山 敏郎 (福岡県)	松尾 芳明 (佐賀県)
岩屋 常夫 (長崎県)	中根 俊吾 (熊本県)	内田 明 (大分県)	滝 豊 (宮崎県)

## ◎ 学校薬剤師 (16名)

中村 順吉 (岩手県)	齋藤 謙一 (茨城県)	小野村 昌 (栃木県)	品田 平三 (埼玉県)
浅野 正喬 (東京都)	山浦 敬 (東京都)	中村 陽一 (岐阜県)	望月 孝 (静岡県)
松村 眞一 (滋賀県)	糸岡 悟 (京都府)	川原 千代 (京都府)	駒見 和雄 (大阪府)
畔地 達郎 (広島県)	藤野 嘉勝 (徳島県)	松尾 英夫 (香川県)	古賀 武 (福岡県)

## ◎ 校 長 (3名)

本庄 康一 (大阪府)	会田悌二郎 (奈良県)	船木 晴男 (大分県)
-------------	-------------	-------------

## ◎ 保健主事 (1名)

船越 良雄 (兵庫県)

## ◎ 養護教諭 (6名)

大塚 雅子 (栃木県)	小林 満子 (新潟県)	三枝 純子 (山梨県)	北出 正恵 (京都府)
島津 尚慧 (兵庫県)	岩田恵美子 (徳島県)		

## ◎ 保健行政等 (2名)

森 志げ子 (栃木県)	脇谷 功 (徳島県)
-------------	------------

## ◎ 学校保健：学校 (7校)

東京都豊島区立西巣鴨小学校	新潟県小千谷市立片貝小学校	福井県松岡町立御陵小学校
静岡県浜松市立砂丘小学校	愛媛県城辺町立深浦小学校	鹿児島県鹿児島市立山下小学校
沖縄県城辺町立福嶺小学校		

## ◎ 学校保健：団体 (1団体)

鹿児島県出水市学校保健会

## 虎の門(33)

### 「人権尊重」の教育を

「僕は旅立ちます」との遺書を残して大河内清輝君が最後の場所に選んだ裏庭の柿の木。今年も同じくらいの実をつけているという。

あの日から約1年がたつ。大河内家に、全国の子ども達から寄せられた手紙は現在、約千通を超えているとのこと。どれも悲痛ないじめの内容で「死」という言葉が溢れていると報じられている。

清輝君の死からこの1年、各地でいじめを受け遺書やメモを残し

9人(中学生8、高校生1)の生徒が、自らの命を絶っている。

死を決意する前に打ち明けて相談にのってくれる人がいなかったのかと痛ましい。

性教育の根底にあるのは「人権尊重」の教育である。一つの例として3・4年生の学習に「わたし達の誕生」がある。誕生から今まで両親達に大切に育てられた自分を友だちもそれぞれが大切なことであるから絶対にいじめても、

傷つけてもいけないという自他の尊重の学習内容である。人権尊重とは「人に対して嫌がることを言ったり、傷つくことをしてはいけない」ということである。人権尊重の認識を育て、人の立場に立って考えられる優しさを生活化へとつないで欲しい。いじめをなくするために、教育の場でも、家庭でも、ぜひ!

(福原保子会報編集委員)

## 平成7年度全国学校保健協議大会

標記の大会は昨年11月に開催された研究大会に引きついで11月17日(金)午後4時から、徳島市のアスティとくしま第1会議室で開催された。

議長団に日本学校保健会矢野副会長、前年度開催県の和歌山県学校保健連合会山中会長、本年度開催県の徳島県学校保健連合会中谷会長、来年度開催県である佐賀県学校保健会吉原会長が選出され協議が進められた。

報告事項は前年度協議大会における協議事項の処理について次のように報告された。

### 1. 要望事項とその処理

#### A 文部省宛

- 1) 児童・生徒の健康診断の充実と強化の促進について7項目
- 2) 児童・生徒のこころの健康に関する対応の充実について4項目
- 3) 保健室経営の充実強化
- 4) エイズ問題を含む性に関する指導対策の樹立について2項目
- 5) 生涯保健における児童・生徒の保健管理指導の充実強化について2項目
- 6) 学校教育における健康教育の推進について4項目
- 8) 教職員の学校保健に関する資質の充実強化について7項目
- 9) 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の待遇改善について4項目

以上の事項について平成7年3月10日に青木専務理事(松久保事務局長随員)が文部省へ出向いて説明し善処方を要望、文部省側からは極力努力する旨の話があった。

#### B 加盟団体教育委員会宛

Aの項目とほぼ同様な事項であるが、村瀬会長名をもって各都道府県・指定都市学校保健会長に要望書として発送した。

### 2. 研究課題とその処理

①児童・生徒の健康診断の充実強化について10項目、②障害をもつ児童・生徒の健康管理、③学校保健教育組織活動の充実強化、④学校環境の安全・充実強化についての3項目、⑤学校における保健指導の充実強化についての8項目、については、学校保



健センターの事業や、各保健会単位で調査研究し、それぞれ報告されていることが説明された。

つづいて協議事項に入り、各ブロックの取りまとめ県は、北海道、山梨県、富山県、山口県、大分県、岩手県、岐阜県、和歌山県、香川県、広島市であった。協議題についての提案と説明者はつぎのとおりである。

#### (1) 健康教育の推進について

①児童・生徒の心の健康に関する対応の充実について一静岡県学校保健会養護部会長林典子、岐阜県学校保健会事務局長下野和男、大分県教委主幹牧操、山口県教育庁学校健康教育課係長中山雅之。

#### (2) 児童・生徒の健康診断・健康管理の充実強化

①健康診断の充実一広島市教育委員会主任指導主事濱村龍彦、②健康管理の充実一栃木県教委副主幹森志げ子。

#### (3) 教職員の学校保健に関する資質の充実強化

①資質の充実強化一富山県学校保健会事務局長朱亀進郎、和歌山県学校保健連合会山本明広、香川県学校保健会幹事鈴木俊彦、②資質向上のための研修のあり方一千葉県学校保健会事務局岡田渉

#### (4) その他

①日本学校保健会組織の強化と学校における学校保健の充実について一茨城県学校保健会事務局長大澤孝久、②特殊教育諸学校における感染症対策について一長野県学校保健会事務局学校保健係長中村恒雄。

以上の各氏から説明のあと協議が行なわれ、その処理については議長団に一任された。



## 北から南から

## 第46回全国学校保健研究大会について

佐賀県学校保健会事務局長 吉村 勇

「第46回全国学校保健研究大会」は、平成8年度に佐賀県で開催することが決定いたしております。

ここに、第46回大会の内容や特色を紹介して、ぜひ「肥前の地佐賀」へおいでいただくよう御案内申し上げます。

1 日 時 平成8年11月14日(木)、15日(金)

2 場 所 佐賀市文化会館(全体会)

佐賀市内11会場(課題別研究協議会)

3 主 題

生涯を通じて健康で、豊かな心をもちたくましく生きる子どもの育成

ー望ましいライフスタイル確立のための自己管理能力の育成をめざしてー

4 内 容(省略)

5 関係団体が主催する行事

ア 第27回全国学校保健・学校医大会

平成8年11月16日(土)

イ 第46回全国学校歯科医協議会

平成8年11月14日(木)

ウ 第46回全国学校薬剤師大会

平成8年11月13日(水)

以上のような内容で開催する予定であり、文部省をはじめとして(財)日本学校保健会、日本体育・学校健康センター等関係機関・団体等と協議しながら準備をすすめております。

佐賀大会の考え方は次のとおりです。

1 望ましいライフスタイルの確立のための自己管理能力の育成にまで踏み込んだ協議をお願いしたい。

2 学校教育法施行規則の一部改正に伴って保健主事の役割について、また、それを含めた学校経営の視点について協議していただきたい、参加者からの意見も多く取り入れた協議会とするため、この課題別協議会をシンポジウムとした。

3 阪神・淡路大震災を契機に学校における「防災教育」の見直しが必要になっていると考える。

この課題についても地域により取り組み方によってらつきが感じられるところからシンポジウム形式とした。

4 その他、保健指導について、第42～45回は協議題にはなかったため、この課題を設けて協議することとした。

## 神奈川県学校保健連合会の紹介

神奈川県学校保健連合会事務局

## 25地区保健会の仲間

神奈川県学校保健連合会は、22の郡市学校保健会と県立学校保健会、私立小学校保健会、私立中・高等学校保健会の連合体として構成されています。

学校保健の地域性尊重の性質上、郡市学校保健会は地域ごと、私立小学校、私立中学高等学校、県立学校の3保健会は全県をカバーして構成されています。

また、各専門分野の活動のために学校長、養護教諭、PTA、学校医、学校眼科医、学校耳鼻科医、学校歯科医、学校薬剤師、学校栄養士の9部会が設置されています。

## 神奈川の独自性

「連合会」という名称は、本会の設立当初、すでに組織をもって活動している地域の保健会が、県一本の組織に編入されると、それぞれ独自の活動が制約されてしまうのではないかと心配されましたが、県学校保健会を全県的に組織しなければ意味がないことから、本会は県学校保健会があって、各郡市保健会が支部となる普通の形式をとらず、即ち郡市学校保健会が主体であり、この連合会という名称にして地域保健会独自の活動を制約しないよう配慮し、単位保健会の横の連絡をするのが連合会という形になりました。

## 注目集める学会発表

次に、本会主事業の一つである神奈川県学校保健学会について紹介すると、例年2月に約500名の参加者を得て、開催されるこの学会は、部会による児童・生徒の健康に関する研究の成果や実践活動についての学校保健活動の推進をはかることを趣旨としており、学会の最後には特別講演も行なっています。

また、この機会を利用して、県教育委員会と共催で保健に関する実践記録・調査研究において優れた作品の児童・生徒の表彰と発表も行なわれます。

神奈川県学校保健連合会は今年、設立32年を迎えましたが、平成5年度に連合会が設立から30周年の記念式典を行ない、また記念誌を作成しました。





甲通爾次治格司一薰坦徹功夫文吉郎章弥節子彦雄夫彦一郎子信二宏明明一次輝進郎久郎博尾之枝ビシ  
 博仁俊光 祐英 和利孝誠 一 裕昌一龍一禎錄英 宗 宣英正謙皇 一栄七銀 八邦等リシ  
 山崎山木沼塚藤野栗田井村永原竹川木川原本野村藤辺月木藤辺田田米野面木原田村野畑坂 津良高原一  
 増山秋植海腰佐高大角金川松小堤石青吉石西牧木近渡望鈴加渡水太奥久水江高塚山岡佐野稲 日天早吉 大  
 春一郎子雄子一子光洋夫彦一枝子一嗣肇博司清子男博理一月子春子雄子 道子昭義二勉生三子美典幸洋一雄調寛三三忠美賢鷹枝子明子校之雄郎介校枝桂  
 千精宗雅滴久美光富元 俊健敬智聰康 章耕一栄日 香昭五箱文栄武悦 直良一正長 紀誠信文利信 公嘉幸昭銳時啓和義克南悦昌陽 学 孝輝一祐 小学 学  
 澤山山山管菅田村野林野野沢林田藤田藤島 本林田輪木木江田沢木上塚 内江原野木野木口村 原立田村井藤藤川藤脇兼井浦 県盛上崎川 施屋村中市小 馬 根立戸工業高校  
 古秋秋秋小小和中奥若若中平小前伊山紀中森滝若増三綿鈴祖吉芹鈴川長 竹中宮水高久青堀今森榊足山富中伊安小工森吉中三福飯水山須布刘三畑六西有島 福調県立大敷小学  
 明子美規一子馬子子智雄子子雄行子保一栄義一勉隆子子士子宏子子行子志見二子子夫英誠俊幸宏文重次子子一昌苗子子己夫昭男子子子芳子之進子子子雄一  
 崇輝克俊英博一澄幸美敏信陽幹正茂 健久久弘 義幸培剛庸 脩哲和令惠俊淑武勝英 衣たか徹雅 博重清慶安勝敬陽洋誠孝早幹克 和正義瑞佳智邦圭信 千富位喜順  
 井井卷黒井田口林田西 箕見野島辺野村橋込田江保田畠川本木井水原瀬見橋沢木藤口澤島藤生子藤藤浦浦藤口川田宮圓沢口塚鎌田戸川橋村部山中田山山辺井藤川坂  
 石石藤大石鎌橋小原大森大浅境中渡水木高牛品堀久高北阿山齊新須神広里高大佐伊野松沢武麻兼佐近大大佐関長増本高松樋手志福水今高中阿丸田吉平須渡桜齊今松  
 郎子哉之夫美夫健子誠保治一行光正彦三肇男二誠雄宏昭篤隆一子雄資三道一郎孝会昭三一時美優恵子子作郎保雄嗣子子幸子子代秀一江善弘志二雄俊子海子治子子子夫  
 明博一博治克道 篤 錦治佑 高道康 萬純 文昌 淳逸正正俊弘秀太 芳卓敬寿 時正善 俊盛脩政勇啓智三 晃登 良弘龍輝敦律玄丸惠智み育亀  
 藤西田谷部 田木田野池田須村木田口石田岡 田野野谷瀬田岡谷原田崎村藤岡野 越永永井田木田田道止林保瀬塚木沢沢作内木上木村子井辺弓田本手川織村山宮  
 齋安原土沼関前青塚古小塚黒北鈴福堀明相岸所須添小土浦船松多海岡岩木近正浅 東京都学校薬劑師 塚塚松高前鈴藤森福大波小久広二鈴西米矢竹鈴井松里金奈渡関和金大小錦興寺小  
 夫藏勸敏四夫二美彦唯隆強一学介員会朝二夫郎治雄也一國二士寛行均隆士進之信夫美夫治保夫勝美 啓聰一之五昭明也進之子利久代之巖正弘夫之郎男清博男雄房  
 哲鉄 隆己卓祐勝和 雅 新 良嘉 康精治寿 昭一公 康博 利 顕 孝行俊智俊洋 慎 由紀 洋謙証博敏智 和品正 常信 望郁道知雅 政道芳  
 村上川野谷野本木田浦上美島川崎田 島野栖浦尾崎下手原原藤枝川原本田居田川 村梨田野 藤藤山山野藤岩原岡波野橋江田平田木見山村倉中門部室村橋根藤原  
 中野澄平大狩松西小三水能金澄神奥益 田美 中増栗松松和山下石小内松木榊山山中藤長堤嘉高半宇角佐周小荒星近高藤森有飯板小角藤高鈴鶴永杉小山寺蒔山川大関斎篠  
 由一男信明元三泰武親治雅政平男久平男祐寛成介子吾臣明郎志司夫爾三郎敏徹秀樹信一二郎之之滋久治治夫学司光三彦彦ッ雪雄夫剛美輔郎治守之勇功二温郎徳夫勇  
 明浩英敏誠哲 兼敬愷 一周敏明良育共 一信忠省康一熊洋昌和真正一恒 清英真瑛 健淳茂 通国寛康 博洋俊陸力真信寿琢正伸太泰 正 又健 敏美久仁  
 野田 上田隅隅隅儀 田美美島倉田澤廻沢利崎木木中木藤廻脇田津 東塚木橋木原田田村池池田野藤藤田吉村村山川川田田鍋村隅 杉崎田田重野田田屋屋山井井  
 河恩前三上大大大応原花能能川安武國井国渡山鈴鈴玉佐森井山花船森森安飯江大岡小沖沖北小小沖沖河奇奇島竹中中中西花半真松三向八山沖笠弥河内長大栗酒寺  
 齊崇三樹通男夫彦門智雄夫夫芳三徳美雄繁喜敏栄俊馨雄苗平英晃久生久平範茂昭行三肇雄博鶴郎仁宏曉二嗣一行剛平夫萌夫隆雄之作平隆人道之博二陽男晃子明武  
 暁直利和和俊右雲辰和和高彰義若昭 光正忠正高 通早浩一 雅正博 實 儀大 一行千幸 英幸正徳 祐哲 史 満久秀公 防正 陽重重 昭憲  
 目尾塚岡崎野玉波徹 野田原田佐藤藤野本本本岡直直川村村藤島上水崎上 屋本藤原野 田坂田田上垣田越丸栄原原宜田瀬岡邊森 木村野口田元上藤藤村野野 藤  
 黒西飯吉岩吉児武藤金牧仲河太木伊伊牧松松山山山吉吉及大西近木坂清今川岡土重山合小堀福長福石井上大生柿小合田根平古吉渡金橋大松龍山須泉井加加木波波奈遠



登半男夫博清夫哉夫院之子純弘雄三厚次子造子通子光憲一清秀之男彦彦博一彦江子久治寛正路又也夫修昭正蔵重修承生郎幸ト一彦三喬宏宏士郎裕孝猛治晃康  
義ト幸幹 費方三か景美 高邦友 藤淳隆文博英政正博 康英満勝元 敬昭淑陽 英 博雪尊卓哲 善博嘉迪 道光 輝彌平安モ嘉輝健 城賢久正 進  
階宮田田野山田よし月田本恒野村川口葉岡 山木田木田辻田 本崎田保村并岡本片山辺岡口田中島口中村野田尾田原岡部野永良并幹津本山谷部川利崎本崎崎  
高三木早岡長水平上医)上上池森倉大中秋山千廣西金澤栗鈴栗裏反秦山岡岡久澤高行橋智北鳥吉森上田飯山山玉団山村大小吉渡萩篠相岩西島長青石磯市市井岩岡河川  
彦男郎樹健 男子郎重太雄子一久二子幸雅治三三一雄三明旭子夫明司平昇郎二典二 隆水二院陽助三一輝彦夫彦威彦義夫人彦二彦修重三之裕郎男夫郎之彦三稔古純  
勝龍三茂 院光哲信福耕紀昭和泰蓋美親博正啓洋弘昭裕 知義雅秀晃 達善秋雄 秋泰田紀庸欣公忠周博元 幸輝泰眞幸昭暢 清範紀剛啓輝信洋正公誠 隆康  
内田野 安心川野谷尾田井辺野岐尾川木田川 土瀬岡 田山 村前崎井井 佐月本 病院下辺北野原家上尾田山星村出田川出田口井辻須曳永隈日仁西 藤丸田永井  
武池上南高堺 温吉播瓦嶺中中渡楠土松中佐横西赤小福岡長嘆堀石宮宮松藤角岩望藤池 木田田 柳久村山吉箕八西井永根湯井合川荒中那船松朝朝綫大奥佐猿三助竹  
岳明子男郎子昇ク文敬和院會子 哲久 子院子清司節子逸夫二三子郎子助勤司真之夫子津之也三豐子薰衛次夫治人明 ク明一彦等一猛男直也夫 二人薰一郎胤  
景 照治一典 ニ義雅久医惠義義院耕 泰 知医惠 彬周信要敬小史玲庸之 圭 正輝喜江博勝浩 瑠 正俊恒慎溥光會 ニ 喜晴 陽 一 一文院 淳柔 仁史良  
藤道江納 田井ク田保林枝清 内田院本岐科 マ 笹畑部野山田掛山上谷川田原阪本野善田井田田瀬原本納村本中島沢谷長リ 村 村原山上村山森村納山川井  
内中長加乾原藤生鎌 久小国医)森山 滝 土堀 夕 青山黑磯杉吉見富阪塩吉山柳木岡一三三和里窪森東 神阪加高井竹岡藤松医)ル 若林木長田岡小片田松堺 近 奥加梅吉玉  
所科ク院院科院院院院所院森ク院院科院院所ク所院ク院院院所孝資志二 蔵博久恪三三一之彦貴也二雄男苗夫子満照 明夫一實宏郎彦二明久子之涉院 徹治高一  
療内クニ医人医医医医療烟ッ医外科院院所ク院院院所孝資志二 蔵博久恪三三一之彦貴也二雄男苗夫子満照 明夫一實宏郎彦二明久子之涉院 徹治高一  
診泉ク藤産婦浦瀬田川嶋香呂ニク井子整形ク医医医療三療 敏 惠立信一 達健一效香祥京 内科文 三精 一 猶芳日正 淳忠 病會 正 勇  
く小小近西沢杉高富中中浅野ク林平益松ヤ湯石小駒白多畑浅東牛北渡玉木七和医) 前村来井影川谷津内本島間田辺中本川田住 妻 鳴川武田井本武永木木田岡友愛岡保須山  
之雄博院彦克子子豪子宏有い平力幸一雄院院守浩幸稔爾彦宏一男男惠明行雄子之治稔治治之樹治郎一郎雄敏二二子鷹熙四己雄博哉彦郎裕惠樹也次律院院院院科夫  
禎俊 北時正裕真 和 一行や昇 政源俊病医 成 賢敏俊陽國哲萩雅義義素清仲 清嘉孝芳秀良好五昭 健貞健淑英重宏正信信道陽寅敏忠正道清政医医医眼敦  
本田川 愛田倉吉井本本田戸光川野浜川田保 智田上藤居 原村村井田田藤 屋 岡田賀井井好水賀川務平田内田家村森 原岡方井松山田好田波野田谷谷吉野橋田梨  
坂山中博津岩常酒橋多山高中水中正久牧越岡滝伊鳥柴榊松中酒亀奥加錠榊西池高羽奥奧三清有石中塙津前木上山上北藤菱柳松緒金若秋本三岡佳水奥金井市大大長木  
エ子し昭一三也明恵郎夫博士行肇美作雄雄弘裕一介人造治幸子裕弘勲二光子博明郎宗弘子男宏典交正子敏隆一道明浩勉徹和一信士雄博一子幸孝吾郎博男夫彦光院郎  
サキ裕と良種賢通昌登喜保直洋敏 満進英一幸祥賢泰正吉悌保文祥吉 益那潤 芳一慶泰澄芳 克正 順正 正敬光 東東重白秀昭謙仁正良謙嗣 規隆克博病哲  
田川田通川田野信木 田咲田井本本沢部崎口中島江中本開口井中田 田原川川村内達田木田神光合上形保石井本井田田村岡本崎上 原崎橋田原藤 沢橋井安野藤  
森滝増切江津水光佐島飯梅広松宮宮宮長篠橋田山大島谷佐浜酒田武康紀石西森今大伊岸植朝井有河井大久広森杉中東米中黒山白村柴篠浜高安篠伊岡松大富吉中伊坂  
治子雄静郎三彦一隆也平洋民健司夫彦晴栄子行子悼助章名一一司弘司サ雄久明司男子一雄文宏郎子久夫功能一也一修雄子誠淳修行輔尚 所夫郎男郎之敏子先一保繁  
智暢與 久太 久惠清芳 守修通英 一邦義隆千久隆典 主嘉淳成義尚 一フ康嘉康隆幸富栄文嘉俊友博善昭 毅新孝 榮俊高 宏龍宏會立三宗庸和信雅吉 隆  
村本北田原正野井口平辺川井下木田 木 水原塚田部利馬村井 路水島田山林川山下坂坂納留藤原田原好木場田井本村田石本田破藤神真眼井庭木見田藤島水田渡川  
北杉山莊市小浦船江西田寒福山鈴小郡佐郡志藤肥武阿由出川浅辻小速中島勝小吉杉松平大加津遠桑玉萩三佐番黒松橋田高早松徳岩近赤医)額平大大澤深内矢清吉佐葛






いつも暮らしの中に **LION**

# 食べたらみがいて、ムシ歯予防。

食べたら、しっかり歯をみがいて、ムシ歯を防ぎましょう。



低学年用(6才-9才) 高学年用(9才-12才)

## ライオン こども ハブラシ

学童の集団検尿に、**エームス尿検査試験紙。**



エームス尿検査試験紙

### ネフロスティックス-L

体外診断用医薬品

バイエル・三共株式会社  
東京都中央区築地6丁目19番20号  
販売元：**三共株式会社**  
東京都中央区日本橋本町3丁目5番1号 〒103 ☎(03)5256-7111  
JU1694-S

健康へのひと粒 服用しやすい ゼリー状ドロップ剤



# カワイイ肝油ドロップ

河合製薬株式会社 東京都中野区中野6-3-5

応急用酸素吸入器

オーツー **O<sub>2</sub>パックA型**

- 医療用具承認番号(62B)第519号(医家向および家庭向)
- 標準小売価格/9,800円(税別)
- 本体サイズ 径90mm×高さ250mm
- 本体重量 900g
- 使用時間 12分(1回限り使い捨て)
- 酸素流出量 3.0ℓ/分
- 酸素総流出量 36ℓ以上



緊急の呼吸困難に備える 学校の常備品です。

プール・運動時における 突然の呼吸困難時に――

〈カタログ御請求下さい〉

**M ミドリ安全株式会社**  
本社/東京都渋谷区広尾5-4-3 〒150  
電話/東京03(3449)9902  
キューキューオーツー

# JES(呼吸・吸圧)シューズ

JESに学問を！  
科学された JES(吸圧)シューズ！



アウトソール ミッドソール 中敷  
(ラバー) (衝撃吸収材) (ラバー スポンジ)

三層式ソール

日本教育シューズ協議会 TEL(086)272-5463  
FAX(086)273-9439